

【田島弥平旧宅】
利根川を吹き抜けてくる空の風を利用し、通風を重視した蚕の飼育法「清涼育」を大成した田島弥平が、文久3年(1863)に建てた住居兼養蚕室。今も田島家当主の住まいとなっているため、「旧宅」が付いている。初めて屋根に換気用の越屋根が付けられ、弥平が「清涼育」普及のために著した、「養蚕新論」「続養蚕新論」によって各地に広がり、近代養蚕農家の原型となった。
「田島弥平」は「清涼育」で名をはせたと言うより、蚕種(卵)の販売を手掛け、微粒子病で養蚕に壊滅的な被害が出ていたヨーロッパ向けに蚕種を輸出し財を成した方が有名(?)。ちなみに、最初群馬県が提出した世界遺産登録の提案書には、ここは含まれていなかった。遺産登録を確実なものにするため、国内の絹産業の近代化の貢献度だけでなく、国際的な絹産業のつながりを加えたとと思われる。

【競進社模範蚕室】
競進社を創始した木村九蔵は、高山社を創始した高山長五郎の弟にあたる。長五郎は「清涼育」、九蔵は「一派温暖育」という蚕の飼育法を考案し、それぞれ「高山社」、「競進社」で養蚕技術を教え、近代日本の養蚕業の進展に貢献した。両者(両社)は、交流関係にあったと言われているが、ライバル関係にあり、仲は良くなかったとの話もある。資料などでは『お互い、切磋琢磨』と紹介されている…。
「高山社」は、昭和2年に廃校になったが、「競進社」はその後も引き継がれ現在も高校として存続している。

【富岡製糸場】
DWR56でゴールとしたが、今回は、鏡川の対岸から製糸場の裏を覗いてスタートする。対岸からは「工女寄宿舎」「ブリュナ館」が見え、「繰糸場」も「工女寄宿舎」越しに見える。

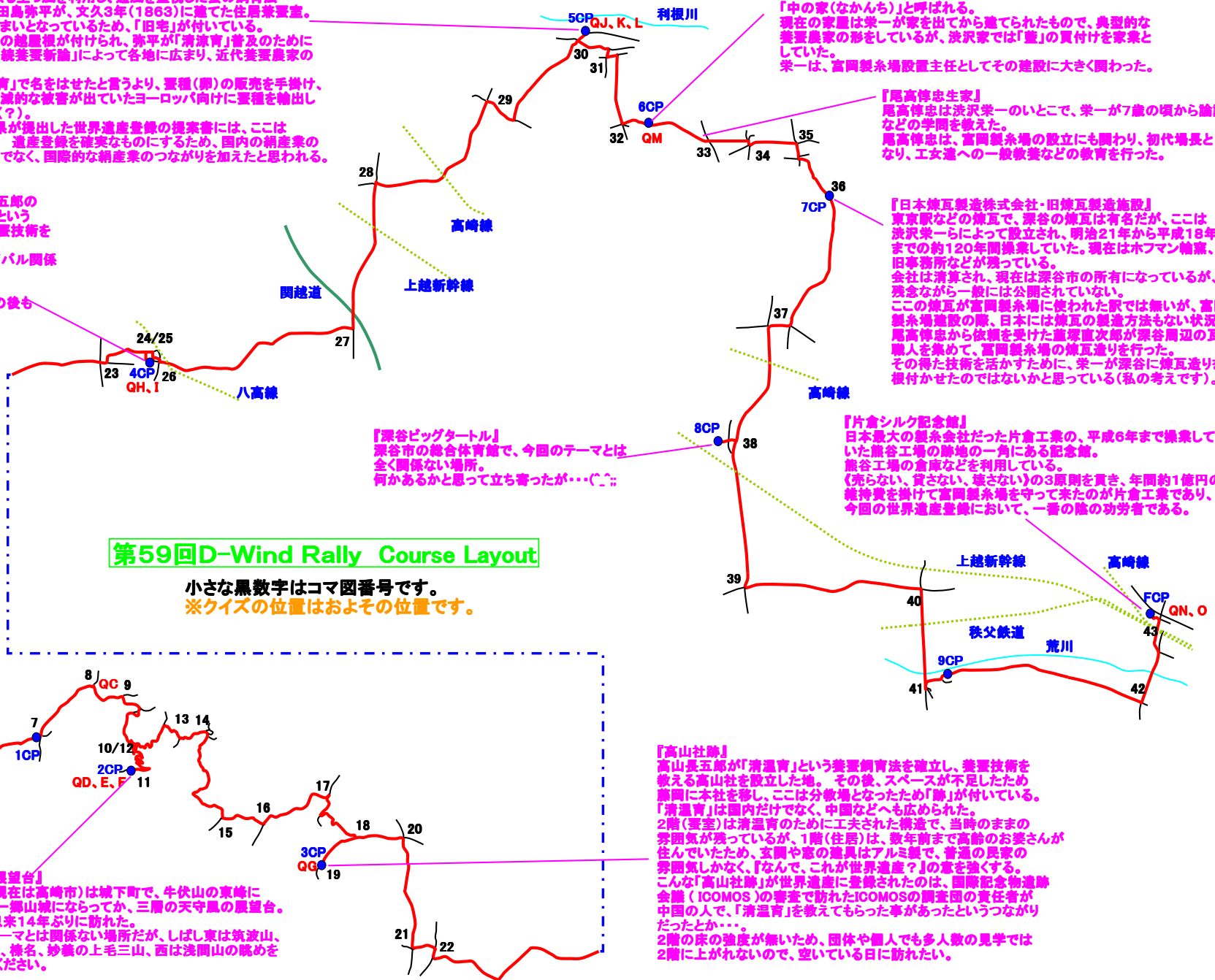


【旧小幡組製糸レンガ造り倉庫】
養蚕農家が生産した生糸を共同販売した組合製糸の「甘楽社小幡組」の保管倉庫。大正15年築。ここも、当初世界遺産への申請施設に含まれていたが、「切り捨てられた絹産業遺産群」となった。

【牛伏山展望台】
吉井町(現在は高崎市)は城下町で、牛伏山の東峰に嘗あった一郷山城にならってか、三層の天守風の展望台。DWR3以来14年ぶりに防れた。今回のテーマとは関係ない場所だが、しばし東は筑波山、北は赤城、榛名、妙義の上毛三山、西は浅間山の眺めを楽しんでください。

第59回D-Wind Rally Course Layout

小さな黒数字はコマ図番号です。
※クイズの位置はおよその位置です。



【中の家(沢沢栄一生地)】
周辺にある沢沢一族の家の中で、中ほどに位置しているため「中の家(なかんち)」と呼ばれる。現在の家屋は栄一が家を出てから建てられたもので、典型的な養蚕農家の形をしているが、沢沢家では「藍」の買付けを家業としていた。栄一は、富岡製糸場設置主任としてその建設に大きく関わった。

【尾高傳忠生家】
尾高傳忠は沢沢栄一のいとこで、栄一が7歳の頃から論語などの学問を教えた。尾高傳忠は、富岡製糸場の設立にも関わり、初代場長となり、工女への一般教養などの教育を行った。

【日本煉瓦製造株式会社・旧煉瓦製造施設】
東京駅などの煉瓦で、深谷の煉瓦は有名だが、ここは沢沢栄一らによって設立され、明治21年から平成18年までの約120年間操業していた。現在はホプマン繪窯、旧事務所などが残っている。会社は清算され、現在は深谷市の所有になっているが、残念ながら一般には公開されていない。この煉瓦が富岡製糸場に使われた訳では無いが、富岡製糸場建設の際、日本には煉瓦の製造方法もない状況で、尾高傳忠から依頼を受けた重塚直次郎が深谷周辺の瓦職人を集めて、富岡製糸場の煉瓦造りを行った。その得た技術を活かすために、栄一が深谷に煉瓦造りを根付かせたのではないかと考えている(私の考えです)。

【片倉シルク記念館】
日本最大の製糸会社だった片倉工業の、平成6年まで操業していた熊谷工場の跡地の一角にある記念館。熊谷工場の倉庫などを利用している。《売らない、貸さない、壊さない》の3原則を貫き、年間約1億円の維持費を掛けて富岡製糸場を守って来たのが片倉工業であり、今回の世界遺産登録において、一番の陰の功労者である。

【深谷ビッグタートル】
深谷市の総合体育館で、今回のテーマとは全く関係ない場所。何かあるかと思って立ち寄ったが…(´_`)

【高山社跡】
高山長五郎が「清涼育」という養蚕飼育法を確立し、養蚕技術を教える高山社を設立した地。その後、スペースが不足したため跡地に本社を移し、ここは分教場となったため「跡」が付いている。「清涼育」は国内だけでなく、中国などへも広められた。2階(蚕室)は清涼育のために工夫された構造で、当時のままの雰囲気が残っているが、1階(住居)は、数年前まで高齢のお婆さんが住んでいたため、玄関や窓の建具はアルミ製で、普通の民家の雰囲気しかなく、「なんで、これが世界遺産?」の意を強くする。こんな「高山社跡」が世界遺産に登録されたのは、国際記念物遺跡会議(IGOMOS)の審査で防れたIGOMOSの調査団の責任者が中国の人で、「清涼育」を教えてもらった事があったというつながりだったとか…。2階の床の強度が無いため、団体や個人でも多人数の見学では2階に上がれないので、空いている日に防れたい。